

108.
細谷 達三
(当時13歳)

フェラリン家所蔵



記念帖作者の名前を調べていくと、「日本画家・細谷達三」の名を見つけました。

記念帖作品32番の田中孝(のちに「田中一村」として知られる画家)とは東京美術学校時代、同期になりました。

ご息は京都大学教授であることがわかり、ご連絡を差し上げました。



細谷達三氏

イタリア、マッジョーレ湖畔
Rocca di Angeraにて
1987年

On 2020/07/17 5:45, Shigeto Kawashima wrote:

道原 聡様

まず、とてもうれしく、ビックリしました。

素晴らしいご連絡をありがとうございます。

私のビックリは、道原様が目的とされている、100年前に敢行された史上初の「ローマ東京間飛行」の歴史から、逸脱するおはなしになってしまうと思いますので、かるく読み飛ばしてください。父の細谷達三に間違いありません。父は妻となる正子(私の母)の姓を受け入れましたが、絵では、元の姓を使い続けました。

父は世渡りが下手な人で、体制や組織にとらわれない発言をすることがあり、古い日本美術社会には合いにくい性格だったと思

います。それでも最後まで日展には出品を続けていました。

同級生の東山魁夷さん、橋本明治さん、加藤栄三さん、山田申吾さんたちが名声を得てからも、特に、加藤さんと山田さんとは友人として親交をあたためていたように思います。

まずお話ししたいのは、1987年、私もイタリアに7か月間滞在しました。いろいろなことが日本と比べて不便で、公衆電話もまともに使えず、交通も不便な所だったのでボロボロの車を10万くらいでVareseの中古屋で買いました。

研究所はEUのものだったので、宿泊施設はしっかりしていて、近所の雑貨屋に行って、あちこち修理して、家の中にアリの大群も出ないように住環境を整えたところに、家族と共に父もイスプラ

(マッジョーレ湖畔の日本のつくばみたいな村)に呼んで、両親とも約1か月間生活しました。その間に、フィレンツェなどにも行きました。

私は京大からつくばの研究所に就職したのが1981年、それから5年目にイタリアへの留学のチャンスを得て、実際に出発したのは1987年3月末でした。私が34歳、おそらく道原様が28歳でしょうか。

フィレンツェで、特に、父は、メディチ家礼拝堂のミケランジェロに感動しました。涙をながしていたことを覚えています。どこかでお会いしていたかもしれませんね。

昨年、私の専門である「大気生物学」の本を出したのですが、どうしてもイタリアを描いた父の絵を載せたくて、出版社と調整をして4点だけ載せることが出来ました。この本には、大気生物学を通じたイタリアとの関係なども書いてあります。

大気生物学が盛んなイタリアには、その後も何度か訪れています。最近では2018年に、パルマであった学会で行き、足を延ばして

フィレンツェにも数日行き、久しぶりに「La Nascita di Venere」と「Primavera」にも会って来ました。

研究者関係中心に友人も何人か出来ました。パルマのRobertoは、病院勤務の生物学者なので、コロナでひっ迫した状況をいち早く知らせてくれました。

いま日本は、無策のために第2の流行が起きています。

イタリアは通常生活をはじめたようですが、次の感染拡大は起きていないようですね？

さて、どちらかと言えば、私のイタリアへの愛情を書いてしまいましたが、もとはといえば、父が絵描きであったことが、私が京都に来ることになったり、イタリアに留学することになったと言えそうです。

とりあえずお礼かたがた、道原様と、「京都」、「イタリア」などで御縁があったことに感謝して、思いついたことを気ままに書かせていただきました。

川島茂人

On 2020/07/18 19:08, Satoshi Dohara wrote:

川島茂人先生

この度は嬉しいご連絡をありがとうございます。

イタリア、京都、フィレンツェ繋がりのお父上との御縁に驚きました。

私のHPも見て下さったようでありがとうございます！

本当に何処かですれ違ってニアミスしていたかもしれませんね。

御縁は不思議ですね。

実は先生がイタリアで滞在されていたヴァレーゼ近郊のInduno Olonaには「ローマ東京間飛行」を成功させたパイロット、アルトゥーロ・フェラリン(1941年没)の別荘とお墓があり、私も2度訪問した事があります。息子のカルロ氏が現在住んでおられます。もしかしたらヴァレーゼの街でカルロ氏とすれ違っておられたかもしれませんね。

お父上の作品の画質の良い写真を送らせていただきます。私は

この記念帖の調査を進めています。二つの世界大戦と関東大震災の激動の時代を生きた少年少女達のご子孫を探し、作品がイタリアに存在している事をお知らせして、お話しを伺いたいと思っています。

もしかしたら当の少年少女達も自分の作品がイタリアに渡った事を知らなかったかもしれないし、知らされていたとしてもその後、まもなく時の彼方に忘れ去られたのではないかと推測しています。既に作者の方々はほぼお亡くなりになっていると思いますが(一番若い方で107歳)出来るだけ早く調査を進めたいと思い、岩井医療財団理事長の稲波弘彦先生のご協力の元、イタリア空軍とフェラリンファミリーの許可を得て、非営利のサイトkinencho1920.comを立ち上げることになり、現在準備中です。世界的パンデミックの為残念ながらイタリアと日本で計画されていた100周年記念事業は軒並み中止になりました。世界的に数ヶ

月先のことも予測出来ない不確かな状況なので、今後は人と物が移動する展覧会のような催しではなく、ネットを通じての公開と調査活動に軸を置かざるを得ないと考えています。

現時点で判明したご子孫の方は、稲波弘彦先生、吉村隆子氏、映画監督の仲倉重郎氏、川島茂人先生です。(ご存知のように画家田中一村氏にはお子さんがありませんでした)

サイトを立ち上げて御子孫の調査を進め、更には記念帖の画集を出版したいと企画しています。サイトの立ち上げと同時に新たな動画を発表すべく現在制作中です。

また進行状況をご連絡させていただきます。

これをご縁に今後ともどうぞよろしく願い申し上げます。

道原 聡

On 2020/07/20 7:04, Shigeto Kawashima wrote:

道原 聡様

早速のお返事ありがとうございます。

父の絵の精細画像をありがとうございます。父は5歳の時に父親を亡くし、勤めながら夜学に通って、専検にパスして、美術学校に上野の美術学校日本画科に入りました。父細谷達三は1996年に89歳で亡くなりました。

子供の時に書いた絵がイタリアに渡ったという話は聞いたことがなかったので、本人も忘れたのか、知らなかったのか、今となっては確かめようがありません。

ヴェレーゼ近郊のInduno Olona村にパイロット、アルトゥーロ・フェラリン氏の息子さんがいらっしゃるのですか。機会があれば是非訪問してみたいです。

ジブリの「紅の豚」は大好きで、あの時代のころのことかなと思っています。いずれにしても、大変興味深い、素晴らしい国際交流

事業だと思います。

あいにく今年はコロナ問題で、十分な活動が出来なかったと拝察しますが、101年目の事業でも、102年目の事業でも良いと思います。非力ではありますが、協力できることがあればおっしゃってください。

京大も同志社も閉鎖された状態ですので、基本的にテレワークです。秋学期からどうなるのか、今後の感染者の増加状況によります。

イタリアは通常生活をはじめたようですが、次の感染拡大は起きていないのでしょうか？友人も何か所かにいるので気がかりです。ことしスペインで予定されていた学会の前後でイタリアにも行きたいと思っていたのですが学会が中止になりました。いつになったら欧州との行き来が安全に出来るのか気がかりです。

今後ともどうぞよろしく願い申し上げます。

川島茂人



川島茂人 (かわしま しげと)

東京都に生まれる。

1981年京都大学大学院農学研究科修士課程修了。

農林水産省農業技術研究所気象科入省。

1997年農業環境技術研究所大気生態研究室長。

2006年東京大学大学院農学生命科学研究科教授。

2007年京都大学大学院農学研究科教授。

現在、京都大学名誉教授。